

高き祈りを嶺宮に ～ 奥穂高岳へ～

安
清
部
美

発行所

穂高神社社務所

〒399-8303

長野県安曇野市穂高6079

電話 0263-82-2003

FAX 0263-82-8770



式年遷宮祭最後の行事 嶺宮登拝に参加して

宮入雅美

御遷宮祭最後の行事「嶺宮登拝」

が七月二十八、三十日に行われました。嶺宮は穂高連峰最高峰の奥穂高岳(三九〇m)山頂に鎮まっています。氏子崇敬者、神社職員合わせて三十八名の登拝となりました。

二十八日の朝、本宮にて出発式を行い上高地明神池畔に鎮まらず当社奥宮で登山安全祈願の後、嶺宮を目指し歩き始めました。初日ということもあり参加者の足取りも軽く天気も崩れる前に宿泊場所の涸沢ヒュッテへと到着することができました。

翌日二十九日は、前夜からの雨はより一層ぐずれ視界も悪い中、穂高岳山荘へと向かいました。厳しい岩場など危険な箇所などありましたが、穂高岳山荘に無事到着することができました。その後、雨風は一段と激しく山荘から山頂の嶺宮までの道はさらに険しくなるため登山案内の方と話し合いをした結果、滑落の危険をとまなうため参加者の方達は山荘で待機してもらい、嶺宮までは神社関係者と登山案内人の十名で登り神事を行うこととなりました。突風にあおられたり、雨が下から吹きつける中、

嶺宮にたどりつき滞りなく神事を齎する事ができました。

最終日、昨日までの天気が嘘のような青空の下、涸沢ヒュッテから上高地に向けて歩き出し、山中に生えている植物を観察したり、風景を写真におさめたりと各々楽しみながら下山をしました。

本宮へ戻り、無事嶺宮登拝が出来たことを報告して「嶺宮登拝」御遷宮最後の行事が締めくくられました。参加者全員で嶺宮参拝はできませんでしたが、江戸川乱歩賞受賞者、遠藤武文様は「良い経験が出来た」、氏子内の内川嘉昭様は「あの天候で穂高岳山荘まででも行けて良かった」、北海道の

相原秀子様は「次回も挑戦する」などの声が聞かれました。



崇敬会発足

去る九月五日徳高神社参集殿におきまして五十余名の出席者のもと、徳高神社崇敬会設立総会が開催され、会長に河西計介氏（阪神百貨店名誉顧問）、副会長に藤澤繁雄氏（株）五千尺ホテル会長）高橋賢二氏（株）中村建築研究所所長）が選出承認され、事業計画・予算等が万場一致で可決され滞りなく設立致しました。

今後も徳高大神様を敬い親しく接して頂き徳高神社発展と会員の弥栄のため、鋭意取り組んでまいりましたばかりでありますので、皆様のお意見と一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

又、御参拝の折には、お気軽にお声掛け下さりますようお願い申し上げます。

名誉会員

（順不同）

- 河西計介
- 株五千尺 藤沢繁雄
- 中村建築研究所 (有)二共電子
- 青柳親知 山田孔政 上條正行
- 田口公一 河合美奈 白澤誠臣
- 金子 昇 浅野 茂 高野敏雄
- 株エス・シー・シー・コーポレーション 櫻井豪己
- 山岸 隆 福島久雄
- 中央住設株 鳴沢諒郎

- 藤森武利 若林健太
- 株壹奉堂 一ノ瀬博幸
- (医)珠光会 江里口正之
- 蓮見賢一郎 等々力強

法人会員

（順不同）

- 税理士法人上野会計事務所
- (有)南安鐵工所
- 株立花 青柳芳郎
- 株二見屋 水沢仁亮
- 安曇野市調理師会
- 株関 組 (株)元庄屋
- アサカワ印刷株 浅川雅史
- 医療法人山田眼科医院山田みち子
- マルサン三興建設(有)
- 株巴屋商店
- 伊藤物産運輸株
- 安曇野能面塾 柏木裕美
- 徳高ビューホテル株
- サン・フーズ株
- (有)寺島工務店
- 河西淳恵 深瀬昌博 平松静子
- 新倉 剛 望月重俊

個人会員

（順不同）

- 那須晴子 堀内珠枝 齋藤正男
- 沢田正一 百瀬 司 田口日出子
- 池田信秀 林 正浩 林万佐子
- 宮下定義 蜜沢 宏 森田優一
- 今村 隆 古旗良次 平沢 清
- 小林ふき子 藤原 晟 大畑正一
- 瀧田政義 藤野貞子 藤森望心
- 山口幹夫 小穴千鶴子 堀江優子
- 中村芳弘 松田晶弘 酒木順子

- 清水徳貞 直井清美 中出はるみ
- 寺島和豊 百瀬定子 滝澤巻男
- 猿渡浩久 佐々木英之 矢澤義幸
- 中矢卓志 田中好太郎 田中 薫
- 中曾根厚志 清澤文子 中山友康
- 金子三男 菅谷直純 黒田昌康
- 西村芳明 清水 繁 金子真佐志
- 小河美紀子 馬場貞雄 山岸美智子
- 水口京子 久保 均 鳥山昭一
- 柳沢今朝利 石井秀雄 小岩井節子
- 召田 亨 原田 登 西澤二郎
- 林 明 宮島 稔 平島弘二
- 鈴木裕一 二木嘉壽子 伊東徹男
- 上原正純 丸山賢治 中島正行
- 加納弘久 浅川一美 南山亨子
- 犬飼誠男 須坂文人 本郷健司
- 中島今朝光 百瀬佳夫 小松康人
- 富岡詔子 立花五良 桜井良治
- 矢口勝義 下平洋一 小林 誠
- 石田喜彦 古田ゆき 片桐正宏
- 谷脇芳文 北原正次 酒井米男
- 河合小奈恵 瓶子敏夫 本郷潤治
- 柳澤 忠 下島政文 石川勇治
- 山下加津子 渡辺 勝 高柳伸男
- 平林 和 内藤芳幸 井口弥寿彦
- 村松清人 高橋明美 北林武彦
- 宮島博敏 岡田政広 山口浩一
- 吉田邦子 田中 研 平野賢吾
- 飯島嗣史 塚田 茂 丸山 聡
- 芳川庸石 百瀬信也 宮島正明
- 宮本真喜雄 望月 力 師岡克彦
- 川崎和廣 大橋寿朗 近藤順子
- 古市昭太郎 山口信雄 松岡良徳
- 遠藤未明 清住めぐみ 福岡秋男
- 加渡正一 奥村真理子 鳥羽宏行
- 鳥羽早苗 林 幸男 丸山広貴
- 胡桃沢武 内川昭次 望月千江子
- 徳武 潔 和田千波 福井秀樹
- 直正高盛 安藤智夫 山田悦子
- 宗像 章 堀内孝子 吉岡弘司
- 筒井廣明 太田 章 高橋 繁
- 萩原茂一 高野春男 赤塚義重
- 望月雄内 小平弘起 小穴史樹
- 青柳実穂 庄司正義 勝山広男
- 越智正康 穂高光雄 小林 宏
- 中郷興志 中野淳一郎 嶋田隼一
- 宮崎さく 宇野志磨 渡邊安春
- 倉内正和 榊原正史 清水信隆
- 矢ヶ崎和子 川上實蔵 神澤宣子
- 野村慎治 木名瀬進 辻 康久
- 南垣恵子 佐藤良治 小平哲也
- 大西 強 太田 寛



田中和子	等々力良勝	中沢義直
宇留賀裕	横内芳美	山田 毅
須山厚子	中嶋平義	福澤恵子
林 順一	重野充男	境谷芳枝
林 勝己	川井亮子	小川大至
勝野喜至	安部久夫	加藤吉郎
宇野弘一	熊岡久子	下平文代
腰川幸夫	山崎勝貞	長埜金治
矢嶋武夫	砂原弘子	宮坂富美子
宇留賀富男	白澤敏男	

(十月三十一日現在)

崇敬会入会のご案内

安曇野が誇りとする二十一年に一度御本殿一殿を造り替える式年大遷宮祭と北アルプスのふもとの安曇野が心と技を捧げる御船祭は、長い歴史の中で培われた安曇野の文化と信仰を象徴されています。

海の恵みと山(陸)の幸を併せ持った御神徳は広大無辺であります。

皆様方には穂高の大神様とより一層深い御神縁を結ばれ生き生きと栄え日々御護り頂けますよう「穂高神社崇敬会」のご案内を申し上げます、一人でも多くの皆様方にご入会頂きますようお願い申し上げます。

会員種別入会金(年会費)

- 一、個人会員 三〇〇〇円
- 一、法人会員 五〇〇〇円
- 一、名誉会員 一〇〇〇〇円



本宮例祭



～御船まつり～

奥宮例祭

～御船神事～



九月二十六日・二十七日と例祭「御船まつり」(長野県無形民俗文化財指定)が斎行されました。お船の山車に穂高人形を飾った大小五艘の御船が町内から氏子衆によって神社へと曳き入れられ、勢揃いした御船のきらびやかな様子は歴史絵巻を見ることができるようです。

今年の人形飾りは、等々力町区の子供船「本能寺の変」、穂高町区の子供船「石橋山の合戦」、穂高区の子供船「飛行機の始まり」、両町区の大人船「土屋惣蔵片手千人切り」、穂高区の大人船「日宋貿易を推進した平清盛が大輪田泊に港を作る」でした。午後三時祭典が始まり、三艘の子供船が神楽殿を各々三周して境内を去り、二艘の大人船が境内に入りお囃子を乗せたまま拝殿の前で激しくぶつけあい勇壮豪快な祭りが

くりひろげられました。御船まつりには子孫繁栄、五穀豊穡が祈られています。



上高地の紅葉がはじまる十月八日、北アルプス明神池で、山の安全天下泰平を祈る奥宮例祭「御船神事」が斎行されました。

晴天の下、龍頭鷗首の二隻の船が色づき始めた木々を映す明神池を一周しました。

例祭後には、初めて「信州安曇野穂高太鼓」による太鼓の演奏が奉納。続いて日本アルプスで遭難された全国各地より遺族が参列の下、日本アルプス遭難者慰霊祭が斎行されました。

風鈴奉納祈願祭

この度、当社では風鈴を奉納頂き、風受けの短冊には願いの事を記し鈴の音にのせて祈りを届ける御祈願を致しました。

多くの方々より奉納頂きまして神様の御心をなごめるとともに、訪れる観光客には憩いの時を感じて頂いたと思います。

風鈴奉納者

- | | | |
|-------|---------|-------|
| 名取奈津紀 | 川合健治 | 川合久美子 |
| 浜林利範 | 浜林美恵子 | 浜林積雄 |
| 長美沙紀 | 横井さあや | 横井風花 |
| 坂田真弓 | 長沢瞳子 | 高木美佐子 |
| 高木愛子 | 小山弘子 | 小山生子 |
| さんはれ | ベストグループ | |
| 青木ゆかり | 藤森美恵子 | 大久保紡成 |
| 大久保長子 | 宮本敬夫 | 宮本幸子 |
| 宮本亜裕美 | 宮本達也 | 中村健作 |
| 中村綾子 | 中村 岳 | |
| 川端民恵 | 宮下美恵子 | 降旗百合子 |
| 藤澤あゆみ | 榊原有那 | 倉田瑞枝 |
| 渡邊早織 | 斉藤 柚 | 保尊まい |
| 保尊まり | 神園勝代 | 片桐正宏 |
| 小平充弘 | 小平 望 | 小平しげ子 |
| 下川君江 | 池上信二 | 丸山章次 |
| 高木和子 | 高木恵朗 | 土屋邦夫 |

- 小口 稔 逸見敬子 丸山三七子
- 丸山孝子 伴在まつよ 小林竹子
- 丸山弘子 荒井智志 荒井裕子



蓮見賢一郎先生 講演会



式年遷宮祭完了及び崇敬会発足を記念いたしました米国法人蓮見国際研究財団理事長であります蓮見賢一郎先生によります講演会を十月二日に行いました。当日約百六十人の聴講者の中、「がんにな

らないのがん予防・再発進行がんとワクチン療法」の講演をして頂きました。



七五三



子供相撲



第31回あづみ野菊花品評会



例祭 奉納ステージ



「若宮社」、「神明社」の
屋根葺き替えのお願い

若宮社

明治二年（一八六九年）の大遷宮
祭に本殿として建築され、昭和四年
（一九二九年）の大遷宮祭に若宮社
として移築されています

神明社

明治四十三年（一九一〇年）に旧
東穂高村字伊勢宮から移され創立年
月は不詳

二社とも屋根が老朽しており屋根
の銅板葺き替えを計画しております
尚、ご記入頂きました銅板は、屋根
に葺き納めさせていただきます。

銅板一枚一〇〇〇円

住所・氏名・年月日・お願い事を
記入の上、社務所、授与所の受付に
お出し下さい。

銅板奉納者（十月三十一日現在）

- 高津義教 吉成春慶 木村緑里
- 田沢淳男 寺田伸之 野口正東
- 柏木裕美 持田麻衣子 持田亜希子
- 堀口寿宏 中川原実照 佐々木智生
- 柏原明子 廣田敏雄 新妻武夫
- 河田恭司郎 片桐正宏 小林裕明
- 上田和美 田村光司 荒井重夫
- 荒井 梢 荒井美智子 天野賢次
- 長谷川優 野嵩明子 下平政子

- 生田目信人 片桐正宏 山本忠平
- 大森知彦 伊藤雄輔 岩崎 悟
- 岩崎静代 高橋 淳 露木絹子
- 祝園尚光 豊田 等 佐野晋彬
- 佐野あやか 浅見龍之介 鹿島敏寿
- 菅井順二 菅井町子 菅井裕之
- 菅井裕樹 浅田 靖 田中優吉
- 後藤義則 鈴木美智子 大森幸子
- 藤井久美子 林 英明 鈴木博一
- 天野輝夫 平林征彦 平林賢三
- 亀井貴広 加金忠志 大津正吉
- 大津雅子 太田 緑 永津碩子
- 丸山保雄 田島忠夫 島村トリ
- 丸山明子 内山直子 高橋暢美
- 中村典之 中村直美 平方志依
- 岡部真由美 見山幸美 田辺朝見
- 等々力桜子 横田康行 古牧 周
- 成田和幸 嵩崎一美 河合美奈
- 大谷昌一 赤塩 勉 赤塩千鶴
- 遠藤明子 菅野孝子 森田 進



穂高の花嫁
穂高の社からお嫁入り

穂高神社 参集殿

430,000円 白無垢・紋服・写真・美容着付け
この価格には、挙式料（60,000円）は含まれていません。
moto@mui.biglobe.ne.jp hotakajinja.com 82-0118

- 赤司龍之祐 池谷英人 佐原礼子
- 増田武志 増田敏子 遠藤喜代香
- 一木かね 田中利幸 石田真知
- 梅原克司 世良田俊介 長谷井満
- 五十木美登里 山田朝大 山田知歌
- 井関茂夫 丸山ちづる 金原正明
- 妹尾雄進 妹尾稲造 坂本 遼
- 七海 誠 小寺邦雄 佐藤清治
- 田中大貴 森 和雄 森とし子
- 軽部結花 竹野光春 清水正章
- 大崇八重美 大神 正 大神正弘
- 木島久美子 望月ひかり

節分豆まき
平成23年 年男・福女募集

来る平成23年2月3日午後4時に行われ
る節分祭の豆まきに、ご奉仕いただける方を
募集致します。
ご希望の方は、神社までお知らせ下さい。

◎参加料：5,000円



新春祈願・交通安全祈禱大祭の御案内

今年も残すところあとわずかととなり何かと気ぜわしい日々をお過ごしのことと存じます。

今年にはパワースポットがブームになり神社等が注目され穂高神社でも孝養杉や上高地奥宮の明神池へ大勢の方が訪れた年であります。

はるか昔から先人たちは恵みを与えてくれる自然に対し神様を感じ、感謝をし祈り・守り続けてまいりました。その祈る心が何世代にもわたり大切に受け継がれ神様の御神威が高まることで目に見えない神様の大きな力として信仰されていると思われまます。

穂高神社は、昨年の大遷宮祭で大神様のさらなる御光と共に快適な御社殿へと生まれかわり、より一層の信仰をいただいているところであります。明けける平成二十三年の始めに当たり車の安全なる運行によつて支えられている社会と私たちの生活に災いのない、幸福をもたらす年でありませうと謹んで新春祈願祈禱大祭のご案内を申し上げます。

一、期間 一月一日(八日)受付九時(十六時)

一、内容 交通安全、家内安全、事業繁栄、商売繁盛、厄除、八方除、試験合格、学業成就、病氣平癒、身体健全、開運招福、心願成就、安産、お宮まいり、初誕生祝い、災難除、職場安全、子授け、良縁祈願、夫婦円満、歩行安心、お礼参り、人形供養、他願い事。

- 普通祈禱 五、〇〇〇円
- 追加祈禱 三、〇〇〇円
- 特別祈禱 一、〇〇〇円
- 追加祈禱 七、〇〇〇円
- 交通安全祈禱
- 普通祈禱 一台につき五、〇〇〇円
- (二台目から三、〇〇〇円)
- 特別祈禱 一台につき六、〇〇〇円
- (二台目から三、〇〇〇円)

平成二十三年 一番祈禱のご案内

「ひとりひとりが受けられる成就の鈴払い」

年明け午前0時の時報とともに、初春のよるこびを神様にお告げし、天下泰平をお祈りする歳旦祭に引き続き、新年の一番祈禱を齎行致します。二年参り・初詣には様々な願いを胸に祈られる事と存じます。

そんな多くの願いを必ず叶えていただけるよう、新年の一番初めに一度しか行われない巫女舞を加えた大変貴重な御祈禱です。

上記御祈願内容のすべての願いを込めて御祈禱致します。

一、祈禱料 一〇,〇〇〇円

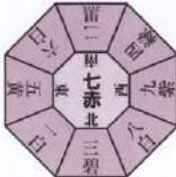
お申し込みは、電話・ファックス・メールにてご予約下さい。当日申し込みの方は、三十一日午後十一時より受付致します。ご予約済の方は午後十一時四十五分に拝殿授与所までお越し下さい。尚、ご参列不可能な場合は御神札等郵送致します。

【八方塞り：はっほうふさがり】

九星は人間の運勢や吉凶の判断に用いる九つの星のことで、九星年盤の中央に入る星を本命星といひます。

本命星にあたる方が八方塞りの年で、周囲八方方向がれ、八方どの方位方向に生じ障害があり、手定な年廻りとされています。

九星年盤 平成23年 八方ふさがりの方 (七赤金星・男)



■男・女八方塞りの年まわり表 歳末年

昭和5年	昭和14年	昭和23年	昭和32年	昭和41年	昭和50年	昭和59年	平成14年	平成23年
82歳	73歳	64歳	55歳	46歳	37歳	28歳	19歳	10歳
昭和5年	昭和14年	昭和23年	昭和32年	昭和41年	昭和50年	昭和59年	平成14年	平成23年
71歳	62歳	53歳	44歳	35歳	26歳	17歳	8歳	0歳

厄除・八方除の特別祈禱祭のご案内

平成23年厄年を迎える方、八方塞りの方はお祓いをお受けになり、大神様のご加護のもと平穩無事である充実した生活をお送り下さい。

「厄年：やくどし」

古来より人生において心身の節目や責務の重き時期で事故、病氣、災難など障害の起きやすい年廻りとされています。

「厄年一覽表(数え年)」

女性		男性				
61歳	37歳	19歳	33歳	42歳	前厄	本厄
昭和27年生	昭和51年生	平成6年生	昭和55年生	昭和46年生	昭和63年生	昭和45年生
昭和26年生	昭和50年生	平成5年生	昭和54年生	昭和62年生	昭和61年生	昭和44年生
昭和25年生	昭和49年生	平成4年生	昭和53年生	昭和60年生	昭和59年生	昭和43年生

「高齢のやくどし」

産まれた年の干支がもとの干支に戻ることを長寿の祝とした60歳の翌年が通常の厄年の最後であることから、現代では長寿祝を迎えた年(古希70歳・喜寿77歳・傘寿80歳・米寿88歳・卒寿90歳)の翌年が高齢の厄年と考えられています。

男女とも					年齢(祝歳の翌年)	生まれ年
91歳	89歳	81歳	78歳	71歳		
大正10年生	大正12年生	昭和6年生	昭和9年生	昭和16年生		

厄除・八方除の特別祈禱祭は 1月8、9、10、15、16日に齎行致します。